

様式(第D-3号)

博 士 論 文 要 旨			
提 出 者	氏 名	佐々木 典子	健康福祉 専攻
博士論文題目	客観的臨床能力試験を用いた臨床工学教育の評価 ～血液浄化療法におけるタクソノミーに注目して～		
<p>近年、臨床工学技士養成課程における学生の基礎知識、コミュニケーション能力、積極性、社会的マナーの低下や欠落などにより、臨床実習が困難となるケースが見受けられる。これらは、タクソノミーである認知領域、情意領域、精神運動領域を含めた相互向上を目的とする実習教育が求められているのではないかと考える。</p> <p>そこで、客観的臨床能力試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) とペーパーテストを同時に行い、タクソノミーがどのように変化、相互向上していくのか確認をすることとした。ペーパーテストは、臨床工学技士国家試験過去問題から抽出し、3つの能力評価 (Tax. I、Tax. II、Tax. III) に分類した。</p> <p>OSCE では、同じ内容を2回行ったことにより、介入群において認知領域に裏付けされた情意領域の不十分さが確認できた。また、模擬患者とコミュニケーションを取りながら行う項目では、評価は低い結果となった。情意領域と精神運動領域の向上を図るためには OSCE を繰り返し行い、臨床現場で必要とされている系統化された評価を受けることが必要であることが確認できた。</p> <p>ペーパーテストでは、すべての能力評価において繰り返し行うことが有効であることが示された。特に、Tax. III に関しては Tax. II よりも成績が上昇しており、試験回数との交互作用が確認された。さらに Tax. III のような高次の知的活動能力については、Tax. I や Tax. II よりも、繰り返し行うことによる効果が大きいことが示された。</p> <p>OSCE とペーパーテストを同時に行うことは、臨床実習に対する学生の関心や意欲向上のための一助として活用できることが示された。</p>			

- (注)
- 1 規格は、A4判とする。
  - 2 和文で約800字とする。